○ 自己表現力を育てるためのコンピュータ利用（２年英語科）

(1) 題材　創作童話を作ろう（過去形）

(2) 英語科におけるワープロソフトと図形処理ソフトの利用

英語科では平成５年度より全学年で週４時間のカリキュラムを編成し，その中で表現力を育てる活動を重視している。表現力を育てる活動の１つとして，コンピュータを使い，画面上で２人でスキット作りをしたり，自己表現に取り組んだりしている。本題材で扱う創作童話は自分の思いを物語にし，さらに英文で表すので，かなりの語学力が必要である。しかし，生徒がコンピュータを利用した創作活動に大変意欲的なことから，既習事項を越えた学習を期待してこの授業を展開することにした。

(3) 使用ソフトについて

ア　使用ソフト 「ハイパーキューブ２」(ワープロ,図形処理)　スズキ教育ソフト

イ　「ハイパーキューブ２」を使用する理由

技術・家庭科で使用しているハイパーキューブ２は統合型ソフトであるためワープロ機能と図形処理機能の両方を備えている。しかも操作技能の大部分は技術・家庭科で育っている。そこで英語科では絵入りの童話を「ハイパーキューブ２」で作成することにした。

ウ　創作童話に必要な「ハイパーキューブ２」の技能

技術・家庭科で習得した技能以外では「英文字入力」だけである。

(4) 指導の実際

ア　英文字入力の指導について

英語科では，１年生の２学期と３学期に英文タイプ用の手引き（練習用プリント）や教科書の本文を入力する練習を５時間ほど位置づけている。指で入力することで，単語の定着度もよく生徒に好評である。

イ　自己表現について

英語科で生徒たちが好む活動は，自己表現をいかした作品作りである。１年生の時から，本校で作成した独自の英語学習ノートで，まとまった自己表現文を作ってきている。生徒たちは絵を描いたり，写真を貼ったりして，その自己表現文がより印象的になるよう工夫している。コンピュータを使った授業の時には，それらをまとめて入力し，保存するようにしている。

ウ　全体計画（10時間）

学習内容	学　習　活　動	時間
構想	・登場人物，場面，展開，結末を考える。	1
下書き	・次の条件で下書きを仕上げ，ＡＬＴのチェックを受ける。（下書きは鉛筆で） 1　最初から英文で書く。日本文を英訳しない。 2　自分の知っている単語を使って表現するようにし，和英辞書はなるべく利用しない。 3　製本の時の印刷は白黒なので，コンピュータで作る絵はべた塗りをしない。 4　印刷スタイルを自分で調節し，見やすい作品になるように工夫する。 5　効果的な絵の挿入を考える。	2
入力 描画	・下書きが仕上がった生徒から，入力していく。 ・自分の知っている図形処理の機能を最大限にいかして描画する。	2
鑑賞 修正 加筆	・ＬＡＮで，工夫されている作品を知る。 ・よい作品を参考にして修正する。 ・新しい考えがわいたら，加筆する。	2
仕上げ 印刷	・ＡＬＴに表現や間違いをチェックしてもらった箇所を修正し，印刷する。	1
鑑賞	・印刷した原稿を製本し，互いに読み合って鑑賞する。 ・読みとり方や作品鑑賞の観点を知る。	2

エ　生徒の感想

・　コンピュータの授業がおもしろいのは，コンピュータやソフトウェアを使いこなす楽しさにあると思います。１つのソフトを使って学習するたびに，そのソフトウェアを征服したいという気持ちになるのです。もちろん，コンピュータのソフトウェアは簡単に使い方のわかるものばかりではありません。そういう使い方のわからないソフトウェアを自分なりに応用の仕方を考えて使っていくのがコンピュータの授業のおもしろさだと考えます。　（男子）

・　先生の話ばかり聞いている授業はおもしろくない。あくびも多くなり，飽きてくる。しかし，コンピュータを使い始めてからは何かが変わった。今ま

で好きだった英語がもっともっと好きになった。キーの場所を覚えるのは難しかったが，指が動くようになると，すごく楽しく授業がうけられるようになることがわかった。（男子）

・　童話....。自分になんて書けない。しかも英語でなんて無理に等しいと，その時私は悟った。その悟りは的中。遠い，遠いコンピュータ室への道のりが始まった。自分でも足どりが重くなるのがわかった。それが，最近軽く感じられるようになったのは何のおかげだろう。やっぱり友達かなあ，それとも先生かなあ？ある日曜日のこと。童話の作品提出期日が決まった時だったろうか。友達が誘ってくれた。自分は，エアコンがあって涼しいからという理由でついていく。その時，コンピュータはとてもすごいことに気がついた。なぜなら，自分が命令したことは何でも思い通りに仕事をしてくれる。紙に書いた童話をコンピュータにうちこみ絵を描くと，それが作品となって自分だけのフロッピーに入る。それがまた感動だった。自分の天敵だったともいえるコンピュータが味方になった気がする。それがとてもうれしくて，今日もコンピュータ室に足を運ぶ。こうなると，自分がとても大きく，強くなった気にもなるから不思議だ。それは自信がついたからなのだろう。創作童話は無事終わった。しかし，それを通して，自分の中のコンピュータの存在が大きくなって，しかも近くなった。私は今，もっともっとコンピュータと親密な関係におちいりたいと願っている。（女子）

(5)　考察

ア　解明された点

・　「自己表現」活動とコンピュータによる「作品作り」を兼ね合わせると生徒はたいへん意欲的に取り組む。

・　内容にかかわらずきれいに印刷できるので，鉛筆で作品を仕上げる時よりも最後まで熱心に取り組む生徒が多い。

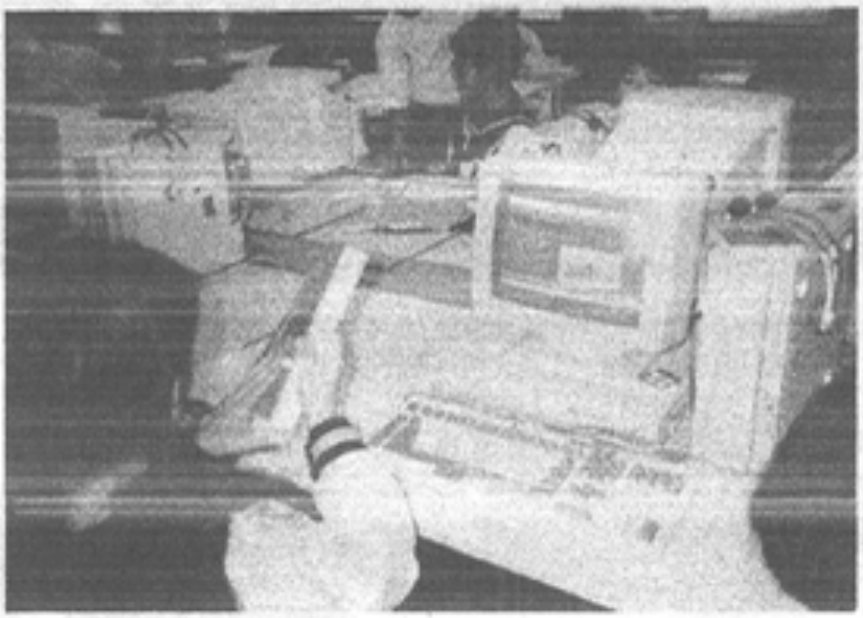
・　１年生という早い時期に英文字入力の訓練をすると，抵抗なく両手を使えるようになり，かなり速く文字入力ができるようになる。操作技能が上達するにつれ，作品作りの意欲も高まる。

・　図形処理のデータをワープロの画面に取り入れることができるようになってから，プレゼンテーションの手法として利用する生徒が増えた。

・　コンピュータの特徴とハイパーキューブ２の機能の特徴を生かして授業を仕組む場合，既成の学習コースを利用する場合と異なり，教師の学習過程を分析する力が大きく影響する。特に創作活動をする場合，最初の全体計画立案と仕上がりの想定が成功の鍵を握ることがわかった。

イ　残された問題点

・　コンピュータを使って創作活動を一斉に展開することは，２人で１台という条件から時間的ロスが大きい。学習形態を工夫した利用方法を考えていかなければならない。



みなさんへのお願い

いつまでも、物語の中の「子ども心」を大切にして下さい。それは、あなた自身の童夢なのです。

あなたたちは、英語を習い始めてまだ１年半です。

３単現のＳが抜けていたり、複数になっていなかったりと、ある程度知識のある人には、気になるような間違いもたくさんあります。もしかすると、意味の通じにくいところもあるかも知れません。しかし、Understandability and humanity more than correctness （正確さを求めることよりも通じること、人間らしさの方がより大切）だと思うのです。

あなたたちが作った物語は、きらめく感性、個性、燃えるような熱意に充ちあふれています。苦しみながらも見事に完成したのです。自信を持ちなさい。「子どもの心」で書かれた物語（童話）は、きっと読む人に「何か」を与えることでしょう。ある人には、感動を与えるでしょう。また、ある人には、失った子どもの純粋さを思い出させるかもしれません。郷愁のような懐かしさを感じさせることもあるでしょう。

「子どものような気持ちを大切にしなさい」と、大人になってからよく言われます。大人も昔は子どもだったのです。それが、大人になり、いろんな社会構造を知ることで、多くの人はだんだんと子どもらしさを失っていくのです。

みなさんは、３Ｄ（ three dimension ）の写真を見たことがありますか。角度を変えたり、目を細めたり、ボーッと眺めてみたりしながら、急に立体が目に飛び込んできたとき、全く違った世界に入ったかのように、わくわく興奮しませんでしたか。それが、子どもらしさだと思うのです。

あと、もう一つ、今回の物語作りであなたたちは大変大切なことを学びました。それは、「自分でわかったつもりでも、読む人には伝わらない」ということです。相手に伝わるように、話したり書いたりするというのは、たいへん難しいことなのです。ことば足らずや勝手な思いこみがあると、大変な目にあうことがあります。自己満足ではなく、人にわかってもらうには、よく考えたり準備をしたりする努力がいります。でも、それは、人間社会で生きていく上でどうしても欠かせないことなのです。この本にのっている仲間の作品の中で、「うん、これはいいなあ」と、素直に感動できるものがあるとしたら、それは“読む人の気持ちになって作られたもの”だからなのです。

出町中学校　中嶋　洋一

佐脇　由美子

私が初めて英語を習ってから、 もう15年以上になります。中学校、高校 、大学、そして教師になってから、と月日が経つごとに、知っている単語の数や、文法はどんどん増えていきます。その代わり、だんだん、間違いのない英語、よく使われる英語に気をとられ、何でも英語で言ってみたかった、習いたての頃の好奇心がなくなっていったように思います。

みなさんが時間をかけて作った、創作童話を読み、そんなことを考えました。なぜならば、そこには、「自分が書けること」ではなくて、「書きたいこと」を英語で表す、そんな心があふれていたからです。

何度言っても、bとdの区別のできない人、代名詞のthey. their them. theirs が覚えられない人・・・ そんな1年生の頃が思い出されます。それらが、力となり、今こうして１さつの形になったわけです。おめでとう。

さて、次はどんな大作ができるのでしょう。

Congratulations!! You all did a great job. I appreciate all the hard work that it took to write these stories. You should all be proud. I am. It took a big effort on your part.

These stories show your creativity and your English skills. I hope this will encourage you to be more creative and especially to use your English more. This book proves just how good you can be when you try your hardest.

I enjoyed reading all the stories and I hope you do, too. Enjoy all the talent in here.

Yours,

Pat Asher

生徒に学ぶ

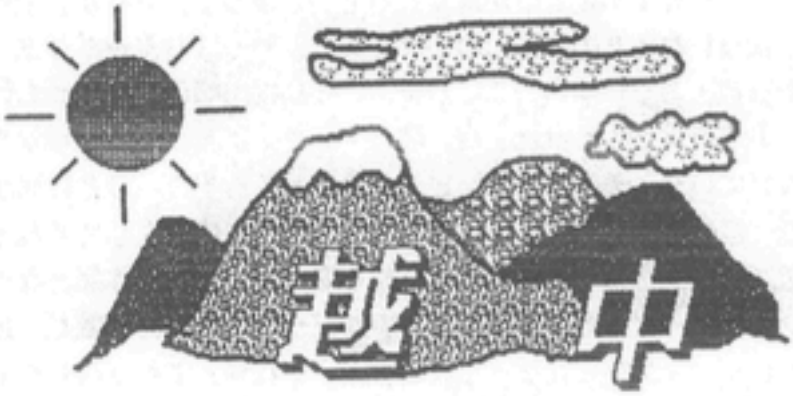
大村　浩一

私は、本来数学の教師である。しかし、今年度は授業数の関係で英語を教えることになった。元々英語には興味があったとはいうものの、やはり生徒に教えるとなると話は別である。自分の思い描いたようにはなかなかいかない。けれど、中嶋先生のおかげでなんとかかんとか一学期を終えることができた。予習プリントや英語の歌などいろいろと準備をしていただいたり、授業の流れを一年生から形づくっていただいたりした。その結果、自分は教えるというよりも逆に生徒に教えられることがとても多かった。

この童話集はその典型と言える。生徒の書く文章は実に簡潔である。いったいどうしてなのだろうか。かりに、もし自分が彼らの考える文章を英文に表すならば、とてもこのようには表現できないだろう。まず、頭に浮かぶのは文法事項であり、はたしてこれで正しいのかどうかばかりに執着する。ここはａよりもtheが適切なのではないかとか、このニュアンスを伝えるにはどの語がいいのか辞書で確かめてみようとか。もちろんこれがある意味では大切なことであり、英語を学ぶ上では欠くことのできないことなのかもしれない。しかし、どう考えても彼らとは英文を書こうとするときの頭の構造が違うように思う。これは、会話をするときにも同じことがいえる。とにかく文章として正しく、間違いのないようにということばかり気にかかり、身構えてしまって、そのうち会話することがおっくうになってしまう。それに対して生徒の方は、英語の情報量もそれほど多くはないため今まで学習したなかでなんとか書こうと試みる。そして、それが結果的にとてもわかりやすく簡明な文章にとつながっているのだろう。つまり、生徒の英語というキャンバスにはまだまだ色は塗られていないが、薄く会話や英作文に適した色が塗られている。一方、私のキャンバスには文法という色が濃く塗りつめられているのだ。したがって、そこから薄い色合いを出そうと思っても容易ではないのだろう。けれど、自分のキャンバスの色がこの数カ月で他から刺激を受け変化が生じてきたことも確かである。

私は幸いにも３度アメリカへ行くことができた。そして、そのつど思うことは自分の英語力の乏しさである。もっと話せたら、もっと書けたらと何度思ったことか。でもあきらめてはいられない。生徒とともに学習していくまたとないチャンスを得ることができたのだから、これをなんとか生かしていきたい。もちろん生徒以上に学習し、教えていくことが大前提である。生徒には負けてはいられない。

"Thank you very much."
Shinnosuke was very satisfied. He divided with everyone. But Syo was not satisfied.
Then Shinnosuke fought with a sword with Syo.
Shinnosuke was a winner in the end.
But, he had bad wounds from the fight.
He got well quickly and was happy then.



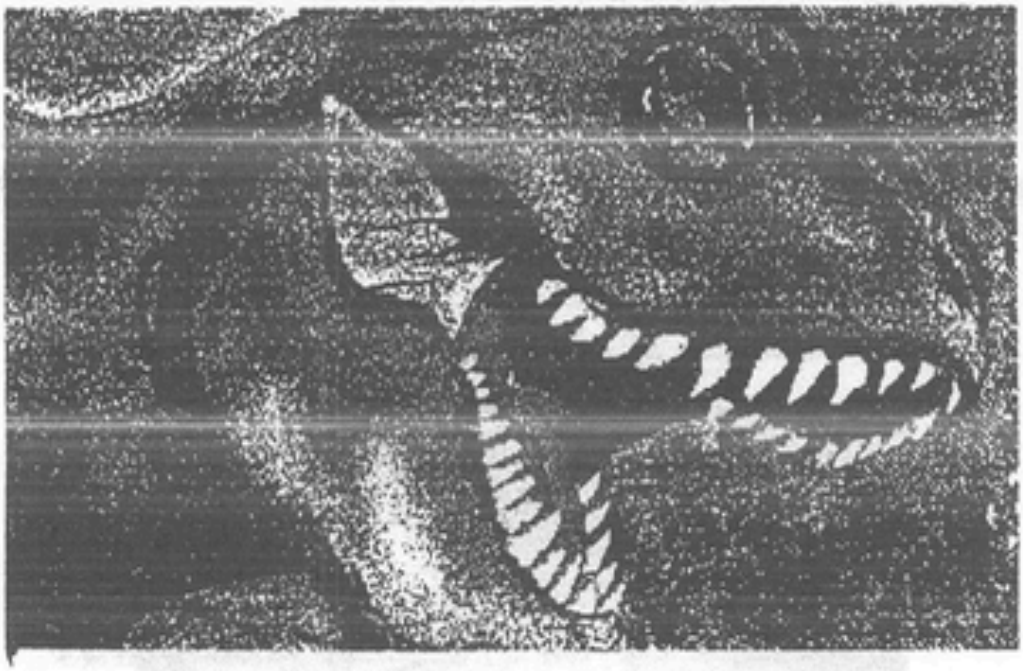
Her blood was on the snow.
It was very very bright.
"Please run away. Please.....Reina"
In that time, Lady Rinka was there.
"Help! Please help Reina!!"
Mayumi cried. The men ran away.
Mayumi died soon. Reina cried.
She was very very sad. She was all alone.

As a matter of fact, Sengawara was a stateman and killer.
He was not a fair person.
Besides, he killed her brother.
At last, she got angry.
I don't forgive Sengawara.
Only one brother.....
She went to Sengawara's home.
She came into his home.
She saw a floor.
There was some blood on the floor.
"Blood...."
She said, "Sengawara! Where are you?
Then she was shot.
"Oh, dear!"
Sengawara said, "Join me"
She said, "No, I won't join, you."

"Oh...Thank you,everyone,I'm very happy."
Mrs.Paula said in tearful voice.
"Today is happy day!"Ely said again.
"Because today is your birthday !"Tom said.
"Mrs.Paula,you're very happy.But I'm happy,too.Because we like you.Do you understand?"the bear asked.
"Yes...yes,I do..."Mrs.Paula answered.Then they sang [Hallelujah].
.....It's a fine day.....

END

Long long ago, there was a JURASSIC PARK.



Long ago. There was a very gentle girl.
Her name was Oyuki.She had a weak grandfather.
They were very poor.
But, Oyuki made desperate efforts.
She nursed grandfather every day.
She prayed to God every day.
But, grandfather died.
Oyuki was alone .
Oyuki had no energy every day.
But, God did not desert Oyuki.
Oyuki's hope was happy.
God could understand Oyuki's happy
One day,God sent Oyuki to heaven.
Oyuki went to heaven.
This was Oyuki's happy.
Oyuki lived in heaven with Oyuki's grandfather.
Oyuki was very happy.